

20091

New Endovascular technique; Ultra SOUL Technique

¹ 済生会横浜市東部病院

白井 重光¹、平野 敬典¹、牧野 憲嗣¹、徳田 尊洋¹、本多 洋介¹、堤 正和¹、毛利 晋佑¹、阪本 泰成¹、小林 範弘¹、荒木 基晴¹、山脇 理弘¹、伊藤 良明¹

欧州や欧米ではすでに幾つかのDCBが使用されており、leave nothing behind、stent less strategyが注目を集めている。ステント留置なく治療を行うには大前提としてflow limitのある大きな解離を避ける必要があり、vessel preparationとしてのpre dilationが重要となる。Pre dilationでは長時間拡張のほうが大きな解離が少ないとの報告やScoring balloonがdistal dissection少なく有効であるとの報告があり、balloon inflation timeやballoonの種類も重要なポイントである。しかしながら長時間のBalloon拡張は、血流遮断による下肢痛の訴えや血流障害による血栓形成が問題となってくる事がある。今回我々はGuide Liner PVを用いて末梢の血流を確保し下肢虚血を回避しながら、10分間以上の長時間バルーンニングを行う方法(Ultra SOUL: Ultra long inflation for SFA stenosis and Occluded lesion Using guide Liner)によるpre dilationを行い、良好な結果を得られた症例を経験したため、IVUSや血管造影の結果を踏まえて報告する。Pre dilationの選択肢の1つとしてUltra SOUL techniqueは有効かもしれない。